

2016年4月16日  
熊本県地震における  
沖縄赤十字病院の活動状況



# 2016年4月16日(土)

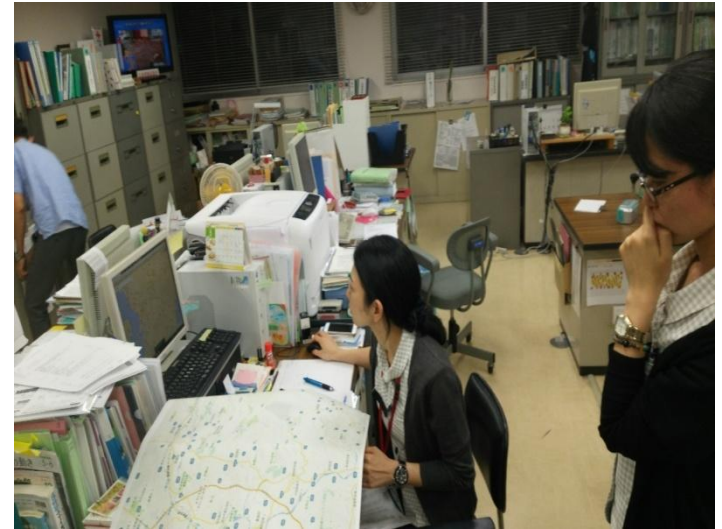
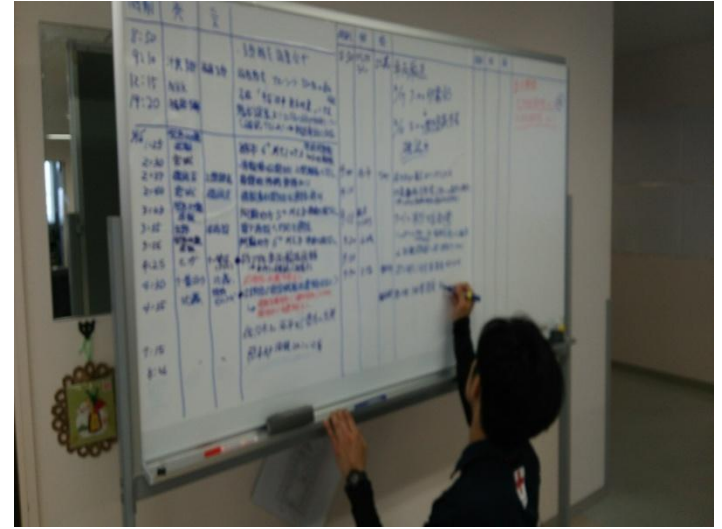
01:46ごろ 熊本県熊本地方  
マグニチュード6.0  
(震度6弱)

03:03ごろ 熊本県阿蘇地方  
マグニチュード5.8  
(震度5強)



# 2016年4月16日(土)

発災直後より、病院職員、  
日本赤十字社沖縄県支部  
職員が集まり、情報収集を  
行う。



# 2016年4月16日(土)

04:25 厚生労働省DMAT事務局よりDMAT派遣要請。

07:30 沖縄赤十字病院DMAT隊として、  
佐々木医師(救急部長)および西平業務調整員  
(事務部)が沖縄県庁へ出動し、沖縄県DMAT調  
整本部を立ち上げる。  
(沖縄県DMAT調整本部長:佐々木秀章医師)

沖縄県庁職員と沖縄県内DMATチームの  
派遣調整を行う佐々木医師(写真左)



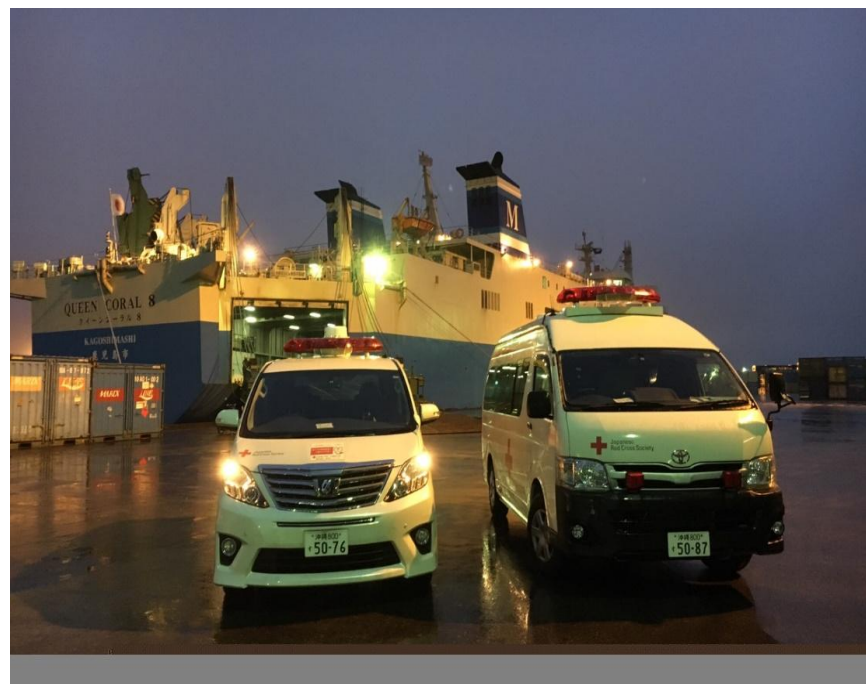
# 2016年4月16日(土)

院内においても  
救護班派遣に向けて準備を  
すすめる。



# 2016年4月17日(日)

07:00 沖縄赤十字病院 **救護班第1班(2名)**として、  
仲西看護師(手術室)、下地主事(事務部)  
が出動。  
緊急車両をフェリーに乗せ、鹿児島県へ向  
かう。



# 2016年4月18日(月)

07:30 沖縄赤十字病院 救護班第1班(4名)が出動。

- ・豊見山医師(外科第一副部長)
  - ・土屋看護師(救急師長)
  - ・下里看護師(ICU)
  - ・志良堂薬剤師(薬剤部)
- 旅客機にて鹿児島空港へ。



11:00 フェリーで到着した班員2名と合流し、  
緊急車両にて熊本赤十字病院へ向かう。

# DMAT(ディーマツト)とは

災害派遣医療チーム Disaster Medical Assistance Team の頭文字をとって略してDMAT(ディーマツト)と呼ばれています。

医師、看護師、業務調整員(医師・看護師以外の医療職及び事務職員)で構成され、大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場に、急性期(おおむね48時間以内)に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チームです。

当院には12名の隊員が在籍しています。

# 救護班とは

災害時に備えて、赤十字病院の医師、看護師などを中心に編成される救護班を全国で約500班(約7000人)編成しています。

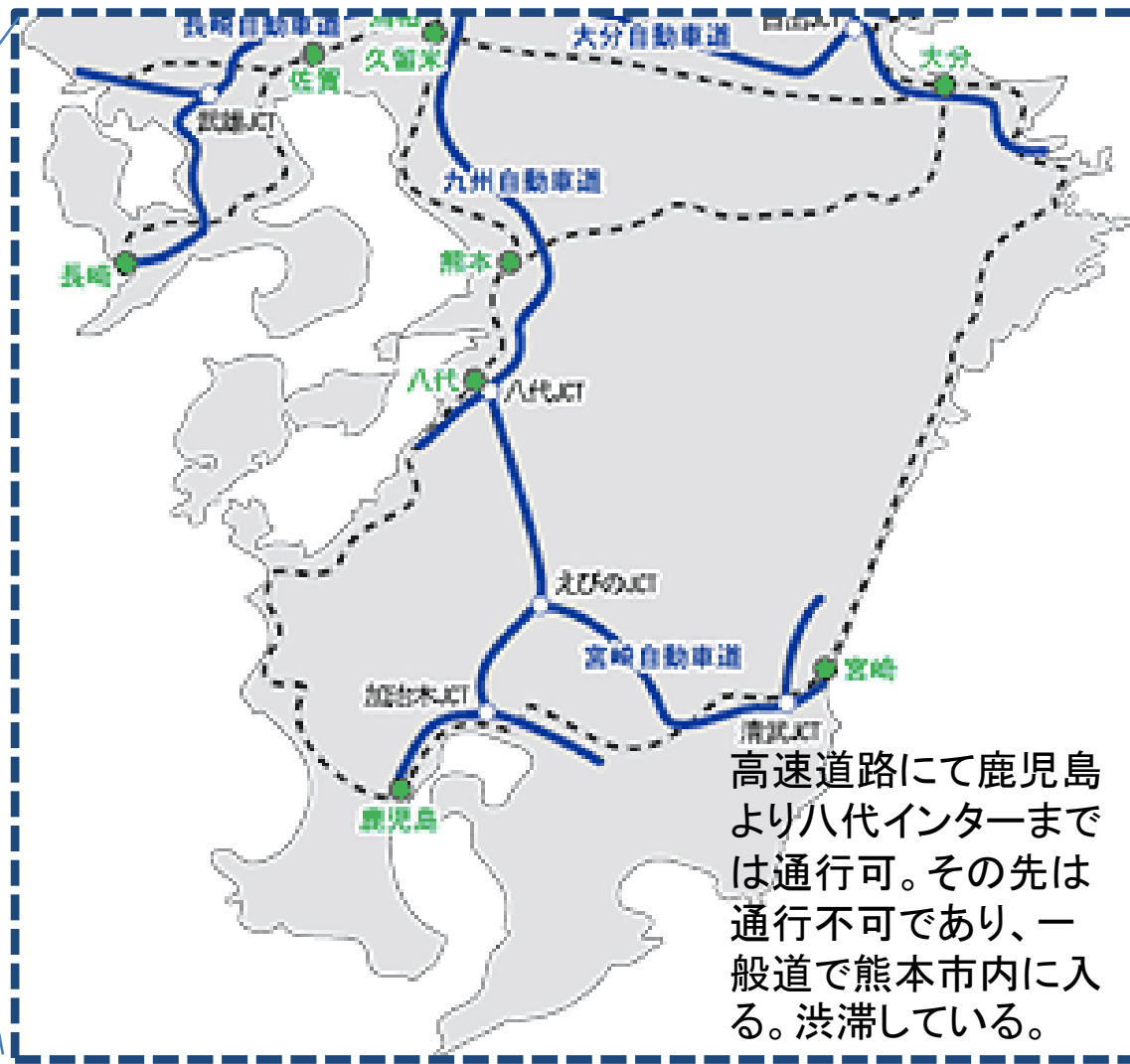
災害が発生すると、ただちに救護班(1班あたり医師・看護師ら6人)やdERU(国内型緊急対応ユニット)を派遣し、救護所の設置、被災現場や避難所での診療、こころのケア活動などを行います。

当院では、5班(30名)体制で災害に備えています。災害時には日本赤十字社沖縄県支部と協働します。

# 救護班の移動状況



フェリーで約25時間  
旅客機で約1時間15分



高速道路にて鹿児島  
より八代インターまで  
は通行可。その先は  
通行不可であり、一  
般道で熊本市内に入  
る。渋滞している。

# 2016年4月18日(月)

- 18:00 熊本赤十字病院に到着。
- 19:00 全体ミーティングに参加。
- 20:00 チームミーティングを行う。

【4月19日(火)予定】

時間: 06:00～診療開始。

場所: 上益城総合体育館。

【地域状況】

道はうねりとても危険。車両2台で向かう。先導は、ボランティアの車両。橋が落ちれば帰れないと。水食料と寝袋は持参となる。



- 24:40 予定変更の連絡。

4月19日(火)は熊本日赤の救急室での活動。

# 2016年4月19日(火)

07:45 熊本赤十字病院の救急外来にて活動開始。

18:04 熊本八代 震度5強。  
病院も揺れたが、被害なし。

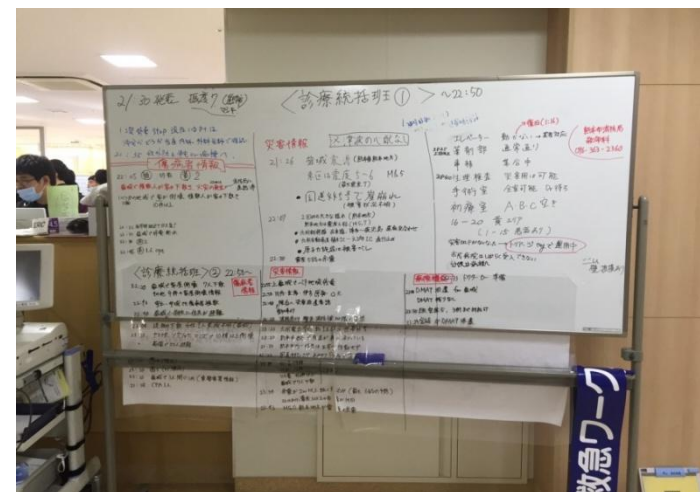
19:00 全体ミーティングに参加。

20:00 勤務終了。

20:47 震度5弱。

【4月20日(水)予定】

06:00～14:00 益城町体育館の  
避難所にて救護活動。



# 2016年4月20日(水)

05:33 益城町総合体育館へ 向かう。  
地割れあり。全壊の家屋も見られる。  
橋の損壊あり。

07:00 益城町総合体育館の避難所で診  
療開始。

14:00 次隊へ業務を引き継ぐ。

15:00 熊本県支部へ到着。活 動報告後、  
福岡県へ移動。

【4月21日(木)予定】

15:00～福岡発飛行機にて、沖縄へ帰任。



# 2016年4月21日(木)

15:05 福岡空港を出発。

17:52 沖縄赤十字病院に到着。

18:00 豊見山医師より帰院報告。  
第2班へ引き継ぎを行い、  
第1班解散となる。

救護活動を終え帰院した第1班メンバー



出迎えて無事を喜ぶ病院職員



第2班に申し送り。被災地の状況や必要な資機材を伝える。



# 2016年4月24日(日)

4月22日(金) 日本赤十字社福岡県支部から  
佐々木救急部長の派遣要請あり。

4月24日(日) 佐々木救急部長が出発。  
福岡県経由で熊本県入りし、阿蘇地域  
で活動予定。



災害対策本部(熊本県支部) 全国各地から赤十字救護班があつまる。

# 2016年4月26日(火)

08:00 沖縄赤十字病院 **救護班第2班(7名)**が出動。

- ・大湾医師 (整形外科部長)
- ・高良看護師(5東病棟師長)
- ・銘苅看護師(ICU)
- ・豊村看護師(救急室)
- ・山城薬剤師(薬剤部)
- ・石嶺調整員(用度課)
- ・志良堂調整員(経営企画・情報課)



17:00 福岡経由で熊本県支部へ到着。

19:00 全体ミーティングに参加。

【4月27日(水)予定】

午前8時より益城町総合体育館にて診療活動。



# 2016年4月27日(水)

- 07:30 益城町総合体育館にて、診療活動開始。
- 16:00 診療を引き継ぎ、移動。
- 19:00 合同ミーティングに参加。

車中泊の被災者からの巡回診療の要望があったが、日中仕事に出て夜間戻る人が多く、夜間帯に訪問しても女性だと安心できるが、危険もあるなどの問題が挙がった。



【4月28日(木)予定】

午前9時半より益城町の巡回診療活動。



# 2016年4月28日(木)

## 08:23 益城町総合保険センター到着。 未登録避難所の訪問診療状況の確認活動

現地保健所にて、すべての公民館を見回ったが、情報が変化している可能性があるため、保健所にて最初に確認した熊本県・飯山小学校校区を中心として巡回し、確認を行う。

11:20 巡回活動開始。(熊本県・飯山小学校避難所ほか4か所)

17:00 上益城圏域災害合同会議に参加。

18:30 熊本県赤十字支部到着。定例ミーティング。

【4月29日(金)予定】

益城町総合体育館救護所にて活動予定。

# 2016年4月29日(金)、30日(土)

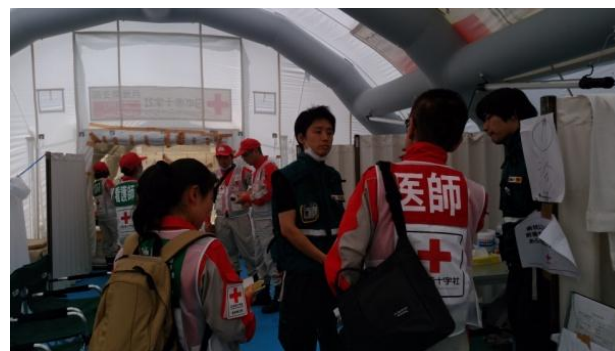
## 【4月29日(金)】

07:15 益城町総合体育館にて診療活動開始。

14:20 診療活動を終了し、熊本県支部へ移動。

(15:10) 大分で地震発生。震度5強。

15:40 熊本県支部にて活動報告を行い、福岡へ移動。



## 【4月30日(土)】

13:00 福岡空港発。

15:40 無事帰院し、解散となる。



# 2016年5月1日(日)

10:00 佐々木医師(救急部長)が、熊本県・阿蘇地域での活動を終了し、沖縄へ帰任。

空港で出迎えた病院職員と佐々木医師



# 2016年5月10日(火)

9:45 熊本県支部災害対策本部から佐々木医師  
(救急部長)へ派遣要請あり。  
日本赤十字社災害医療コーディネーターと  
して熊本に向け、出発。

## 日本赤十字社災害医療コーディネーターとは

災害時、混乱した医療体制を調整し、速やかに復旧することを目的として、日本赤十字社でその活動遂行するための技能研修を受けた資格者のこと。

活動内容は、主として災害医療のかじ取り(コーディネート)を行う。医療ミーティングの開催、医療チーム派遣、他機関との調整など。

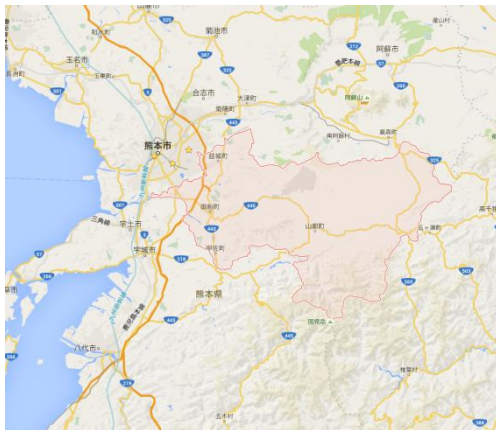
東日本大震災では、甚大かつ広域、長期間にわたって地域医療体制の機能が麻痺し、行政機関も低下した状況下において、被災地地域医療の窓口としてこの災害医療コーディネーターが大きな役割を果たした。



# 2016年5月15日(日)

21:50 佐々木医師(救急部長)  
日本赤十字社災害医療コーディネーター  
活動を終え、沖縄帰任。

活動としては、熊本県上益城圏域で救護班の活動調整や関係機関などとの調整・協議にあたり、救護活動の戦略案の策定や、熊本県支部災害本部への助言などを行った。



## 【熊本県上益城圏域】地域の概要および特性

熊本県のほぼ中央に位置し、熊本県と隣接している平坦部から豊かな自然環境が残り農林業を主な産業としている山間部までの変化に富んだ地域。

平坦部は熊本市のベッドタウン化による都市化が著しい。山間部は少子高齢化が進行し、地域の担い手不足が課題となっている。